

浄信寺通信

平成15年夏号

名古屋市中村区名駅五丁目二〇番三
宗教法人浄信寺収益事業部羽塚孝和
TEL (〇五二) 五六一一七三六
頒布価格年 千三百円
(檀信徒会費)

なぜ、階段を一階^{あが}上ると、2階なの！
地下に一階^{おり}下ると、1階（地下）なの？

0^{ゼロ}と「空」^{くう}

浄土真宗高田派の寺院の生まれの永六輔^{えいろくすけ}氏が、以前ラジオ番組で、一年の始めは、1月1日0時0分0秒からで、何で0月0日の0時0分0秒からではないのか？。そんな話を話されていた記憶があります。詳しい放送内容は、忘れてしまいました。

名古屋駅前にも、又新しい高層ビルが建つそうです。こうしたビル1階から、一階上ると、その階は、2階になります。1階から、一階下^おりると、今度はそこは、デパ地下^おと言われるように、地下1階になります。



額にビンディーをつけたインド女性

地上と、地下の階数の数え方の基準がどう考えても異なっている気がします。では、お雛^{ひなま}様の飾りは、五段飾りとか七段飾りと言います。お雛様の諸道具を置く場所（段）は、一番下段です。この段は、一段目と言います。

日本人は、物の数^{かず}を数^{かぞ}える時に最初^せが0から数える場合と、最初を1から数える場合を、無意識に巧みに使い分けている様です。

前述した、ビルの階数の数え方では、地上の階は、1から数えて一階上がれば、2階になります。地下の場合には、0から数えた場合には一階下りれば、地下1階と数えます。

外国映画などでは、日本と言うビルの1階が、グラントで（日本で言う）2階が、1階と表示されているエレベーターの画面が映る場合があります。この場合は、地上階^ゼも0から、数える事になっている。

満年齢・数え年

少し前までは、年齢の数え方も満年齢と、数え歳の数え方がありました。かつては、正月が来るたびに、歳を取る数え方が、一般的であった。

つまり正月が来れば、年玉^{としだま}を、大人も、子供も一つずつ頂く事であったと言われている。そしてその年玉は、同時に又魂^{たましい}の意味でもあったので、たとえ、生まれたての赤ん坊にも、魂の無い赤ん坊は

平和公園墓参のご案内

日時： 8月12日（火）
13日（水）

：午前8時頃～午後1時頃



夕陽の当寺累代住職の墓
（平和公園浄信寺墓地）

住職の誕生日に孫(満三歳)から贈られた絵



いないので、だれでも、生まれた時は、一歳なのである。現在は、ほとんど満年齢で数えるので、その人の誕生日が来れば、一つの年玉(歳)を加える。時間の長さで年齢を計算する方法が、一般的になつてしまった。でも仏事の数え方や、享年の数え方は、まだ数え年の数え方をしているのは、日本人の繊細な民俗の心の現われだと思ふのである。

この物の数え方の0の数字は、今から二千年ほど前に、インドで発見された数字(概念)と言われている。そして、その頃つまりお釈迦さん亡くなつてから四〇五百年後に、大乘仏教と言われる仏教が、おこつた事と無関係ではないのです。このゼロを意味する言葉は、インドの古語サンスクリット語のシュニアです。このサンスクリット語のシュニアと言う語彙が、中国に、仏典と共に伝播された時に、中国ではまだ0つまりシュニアと言う概念が無かつた為、それを空と中国語(漢字)に翻訳し。【空】と言う思想哲学が、流布したと言われている。【空】とは何かと問われても、小生には、それに答える能力も知識も残念ながら持ち合わせていないので、関連書籍を参考に、少し説明してみたい。

大乘仏教・縁起

大乘仏教運動というのは、お釈迦様が説いた「縁起」という言葉を「空」と表現していこうとしたのが最初の運動です、それがお経として表されたのが『般若心経』などの般若経系統の經典です。

この系統が、西暦一世紀ごろに『大般若経』の形でまとまつています。

この般若経の変形が『維摩経』になり、『華嚴経』もその流れにあるもので「無限の縁起」としての宇宙を表し、無限の仏のいのちであるという意味で、大仏さんは奈良の大仏のように大きくなければいけないのです。

『法華経』は仏のいのち、真実といういのちを我々は生きている真実のいのちの中にいるのだと教えています『勝鬘経』『涅槃経』などは「如来蔵」といって、みんな「仏性」というのを持つておりだれでも仏になることができるという主張です。簡単に言えば、そういう事だと言われています。

こうした大乘仏教の理論の一つとして一切のものは本質をもたない、「すべては空である」との思想を完成させたのが真宗で言う七高僧の一人の龍樹(ナーガールジュナ)と言われています。

仏教はインドを中心にアジア各地に広がりますが、中国へは、一説によれば、紀元六十七年後漢の

明帝の時代に、ガンダーラから、パミール高原を経て、中国西部に伝播したと言われています。当時の中国の人々の心を、つかんでいた、道教・儒教的な考え方と融合して、『孝経』と言われる、偽経も作成されました。同時に、漢字に代表される中国独自の文化と融合して、仏典の漢訳がなされて、多くの『漢訳仏典』の成立をみるのである。

特に五世紀に鳩摩羅什が出るに及んで、彼の卓越した仏教に対する造詣と語学力を持つて、多くの漢訳經典が流布する様になり、隋による中国の統一がなされる頃になつて、漢訳經典の研究や、解説書・注釈書などの研究もなされる様になり、中国での仏教がそれぞれの根本(重要)と考える經典を中心にした、僧侶の集団が成立したのである。そうした集団の中に唐代はじめ善導(七高僧第五祖)六一三年〜六八一年(日本は飛鳥時代、大化改新があつた頃)が、曇鸞(四七六〜五四二?)のはじめた、浄土宗を人々にすすめる民衆救済に勤めた。善導は『観無量寿経』(観經)

についての解釈を記述した、『観経疏』（かんぎようしよ）は、日本の法然上人に、絶大な影響を与え、やがて法然門下の親鸞などの日本浄土教へと展開していくのである。

『無量寿経』や『阿弥陀経』は簡単に言えば、阿弥陀様という光の姿であり、寿命の姿で。仏様の真実は永遠である。それで一切を包んでいるという形で表現したものです。その仏との出会いの関係を主張し、その包まれている中で一人一人の凡夫がどうやって真実に目覚め、真実に気づいていくのか、ということを書いていくのである。

つまり、0という数の起源にはインドの宗教的側面と同時に、インド哲学が反映されています。インドで0を意味する言葉は、先述したように、サンスクリット語のシュニアです。シュニアとは文字通りに何も無いという意味。そのインドの言葉が、中国語では「空」と翻訳され、大乘仏教の一つの根本をなす「縁起」にもとずく、空の思想が生み出され、その

空と言う教えの象徴として、阿弥陀様があると言う事を、理解していただきたかったです。

インド女性のお化粧？

我が自坊の近所に国際センターがあり、ビンディーと称される点を額に付けているインドの女性に時折出会います。このビンディーは、「空」を象徴的に表すものとされています。ビンディー、即ち「点」は「穴」へと変化し、そしてこの「穴」は、一種の世界観を表すものとなり、例えば、その一つが人間は全て、この「穴」の中にいるという考えです。「救い」とは、「穴」から抜け出ることだと考えられた名残だそうです。

0があるから計算可能

0が無くては、ローマさえ計算できません。インドの宗教と哲学から誕生した0という画期的な数字は、数の世界に全く新しい道を開きました。

0は、数の大きさを表すと同時に、位取りの空位を表す記号としての役割もしています。インドでは「位取り記数法」（「インド記数法」）が十五・六世紀ごろに生

まれました。これは、私たちが今使っている1, 2, 3, …という数字を使って数を書き記す方法です。「位取り記数法」が生まれる前は、ヨーロッパでは「ローマ記数法」というものが使われていました。この表示方法では大きな数字を表そうとすると、大変長くなり、読みづらく、これに比べ「位取り記数法」では0から9までの十個の数字を並べるだけでどんな大きな数でも表せる為、大変便利な方法であると言われている。「ローマ記数法」では、紙の上で計算できないのだが、「インド記数法」の便利な点は数字を紙に書いて、紙の上で計算できるという点でもあった。

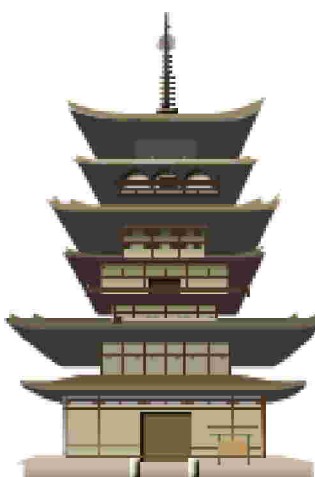
■仏教用語解説・【縁起】

病気が苦悩となるのは健康というものに執着をするからです。年を取ることに苦悩となるのは、若さというものに執着するからであり死が苦悩となるのは、いつまでも生きていたいという思いが死を苦悩と見ていくだけのことなのです。ところが、生まれたら死ぬのがあたりまえであり、年を取るのもあたりまえであり、病気の縁に

出会えば病気になるのもあたりまえです。しかも、その命は、因縁によって成り立っている、つまり関係性のうえにおいて成り立っているのです。「私」というなものかがあつてこの「私」が成り立っているのではないのです。ただいまの一瞬一瞬を「縁起」のままに「私」としてあらしめられている生かされているということです。

いろいろな原因と条件のうえに仮そめに「私」という存在が成り立っているのです。私を私たらしめてくれているのは「私」ではないのであつて、私を私たらしめてくれているのは、無量無数の因であり縁なのです。だからその原因とか、無量無数の条件を全部取り去っていったならば、「私」という存在などはなくなってしまうということです。そういう押さえ方を釈尊は「縁起」ということばによって示しているのです。

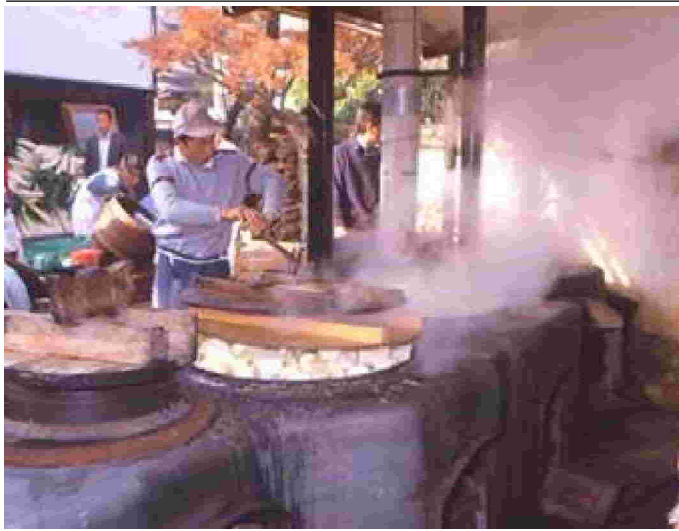
（小川一乗 大乘仏教の根本思想）



奈良・薬師寺：東塔

お 寺 紹 介
中風よけご利益

京 都 鳴 滝 大 根 焚 寺
真 宗 大 谷 派 了 徳 寺



京都市の北、昔、鳴滝川なるたきの上流の滝の音が聞こえてきたというので名づけられた、鳴滝大根の産地である有名な、右京区鳴滝本町にある真宗大谷派法輪山了徳寺（別名大根だき寺）近くには、世界文化遺産の仁和寺や竜安寺などがあります。

この寺で、毎年十二月九日十日の両日にわたって、上京区五辻通千本にある千本釈迦堂（大報恩

寺）の大根焚きと共に、京都の師走の風物詩で有名な、鳴滝の『大根焚き』と呼ばれている真宗の最も重い行事の「報恩講」にさいして大根焚き供養が行われます。

その昔、建長四（一二五三）

年、親鸞聖人が愛宕山月輪寺から帰途この地で説教をした時、感動した里の人が大根の塩炊きをさし上げました。これに対して聖人はススキの穂を束ねて筆にし、「みょうじんじつぼうむげこうにょらい命尽十方無碍光如来」の十字の番号を書いてお礼に渡したという伝承があり、『大根焚き』はこの故事にちなむものです。今も、了徳寺前庭には「すすき塚」があつて、親鸞聖人のススキが残されています。

京都の亀岡市篠町で栽培された「青くび大根」三五〇〇本ほどが、前日早朝から、寺の檀信徒の奉仕により、直径が一メートルもある九つの大鍋に大根とお揚げあさ

ん（油揚げ）を醤油しょうゆできれいなべつ甲色になるまで、煮込まれます。

京都の人は、大根焚きを食べると厄除け特に中風よけのご利益があるといい、年配者を中心に普段は、静かな大谷派の寺も、この両日は、多くの参拝者が訪れる。建物の中では、できたての大根だきの器や食器がのったお盆をもつて、婦人たちが忙しく立ち回る。境内には調理を待つ大根が入った樽たるが並べられ、煮えたぎる大釜からは湯気がもうもうと上がる。底冷えのする師走の京都に、暖かい湯気が上がり、美味しそうな匂いが、ただよう了徳寺の境内に参詣した人々は、一年の無病息災を感謝し、新しい年の無事を祈るのである。

大根。揚げどうふが一枚添えてあります。しょうゆ・塩味で一碗 八〇〇円（左上図）薪で焚かれたかやくご飯に大根の葉のおしたしたくわんが添えてあります。大根ともで

（左下図） 一五〇〇円



浄 信 寺 報 恩 講 勤 修

平成 15 年 11 月 9 日（日）
午前 10:00
勤行・法話・おとき

浄信寺のホーム・ページ

<http://www.jiin.or.jp/>



真宗大谷派 法輪山 了徳寺 【鳴滝 大根焚寺】

〒616-8242 京都市右京区鳴滝本町 8 3

TEL 075-463-0714

URL: <http://www.ryoutokuji.or.jp/>

交通：阪急四条大宮駅下車、京都市バス、宇多野・山越行き（26号系統）乗車。停留所名『鳴滝本町』下車（所要時間約30分）

：JR京都駅より山陰線（亀岡・園部方面）乗車
JR花園駅下車、タクシーで約ワンメーター